
ラセッタの動物たち

あしか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラセッタの動物たち

【Nコード】

N7883A

【作者名】

あしか

【あらすじ】

ラセッタの動物たちは、みんなとてもいい動物たちだ。

ねえ、世界っていつたいなにできてるんだろう。

こないだ、2歳になったばかりの小さなトナカイの男の子はそう言った。

つぶらな瞳がかわいい。

きっと、ちよつとしたラッキーさ。

もうすぐ、13歳になるうかという老齡の七面鳥はそう言った。
顎から伸びた白い髭が地面まで届きそうになっている。

ラッキーってなあに。

どうしてもりんごが食べたいってときに、シロアリについてなにか思いつくかつてことさ。

ふっん……。

話は変わるけれど、丘の上の小さな家に住んでいる、あの有名な七面鳥の夫婦の3匹目の子供が、こないだついに、空を飛ぶのに成功した。

32メートルの、見事な大飛行だった。

これはやっぱり、彼女の父親が、毎日仕事を終えてから、彼女の練習につきあってあげたからだだろうな……。

だから、その子が飛んだとき、二番目に喜んだのは、父親だった。
一番は、もちろん彼女だ。

そのとき父親は、こんなことを言った。

すごいぞエリー、初めて飛んだのに、32メートルも飛ぶなんてな、お前は3歳になっても飛べないのをずっと悔しがっていたが、父さんは、初めて飛んだときは、12メートルしか飛べなかったんだぜ。さあ、今日はもうお家に帰ってご飯にしよう、帰ったら、みんなに今日の話を聞かせてやろう。

さきに帰ってて、お父さん、あたし、もうちょっと飛んでみたいの、やっと、飛べたんだから。

彼女はそう言った。

顔は嬉しさと興奮で染まっている。

だめだだめだ、あまりやりすぎると、変な癖がつくからな、それにもう遅い、続きは明日にしよう、明日はもっときれいに飛べるようになってくちな。

きれいに飛ぶってどうゆうこと。

空のうえまで飛んでから、そのうえまで飛ぶってことさ。

ふうん……。

さあもう帰ろう、お家で母さんが美味しい料理を作って待っているよ。

うん、お父さん、続きはまた明日ね、絶対、約束だよ。

ああ、約束だ。それじゃあ急ごう、お家まで、427メートルもあるからな、急がないと、夜になっちゃう。

……七面鳥は距離を測るのがすごく得意だ。彼ら、彼女らは、毎年ものすごく遠いところまでまったく同じ日にちで引っ越しをするらしい。

もっと話をしたいところだけれど、今日はもう遅い、ここまでにしよう。

ラセッタの動物たちは、みんなとてもいい動物たちだ。

今日も、ラセッタにはのどかな空気が流れているし、朝になれば、優しい太陽が顔をだすだろう。

それでは、また、どこかで。

（後書き）

拙い文章ですが、楽しんで読んで頂けたなら、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7883a/>

ラセッタの動物たち

2010年12月3日06時00分発行